

デジタルアーカイブの活用可能性と求められる機能について
Potential utilization of digital archives and required functions

端場純子 名古屋大学附属図書館

1. 背景と目的

附属図書館では、東海国立大学機構デジタルユニバーシティ構想基本計画並びに名古屋大学学術データ基盤整備基本計画における取組の一つとして、機構の構成員が収集・作成した画像や動画のデータセットを共有・公開し、研究者や一般市民の利活用に供するためのデジタルアーカイブプラットフォームの構築を進めており、2024年度に公開予定である。掲載するコンテンツは、古文書など紙資料をデジタル化したものや、標本画像、種々の写真や動画など、あらゆる分野のデータが対象となる。それらのコンテンツを元の研究領域に捉われず幅広く利用してもらうことで新たな研究が生まれ出されることを期待している。

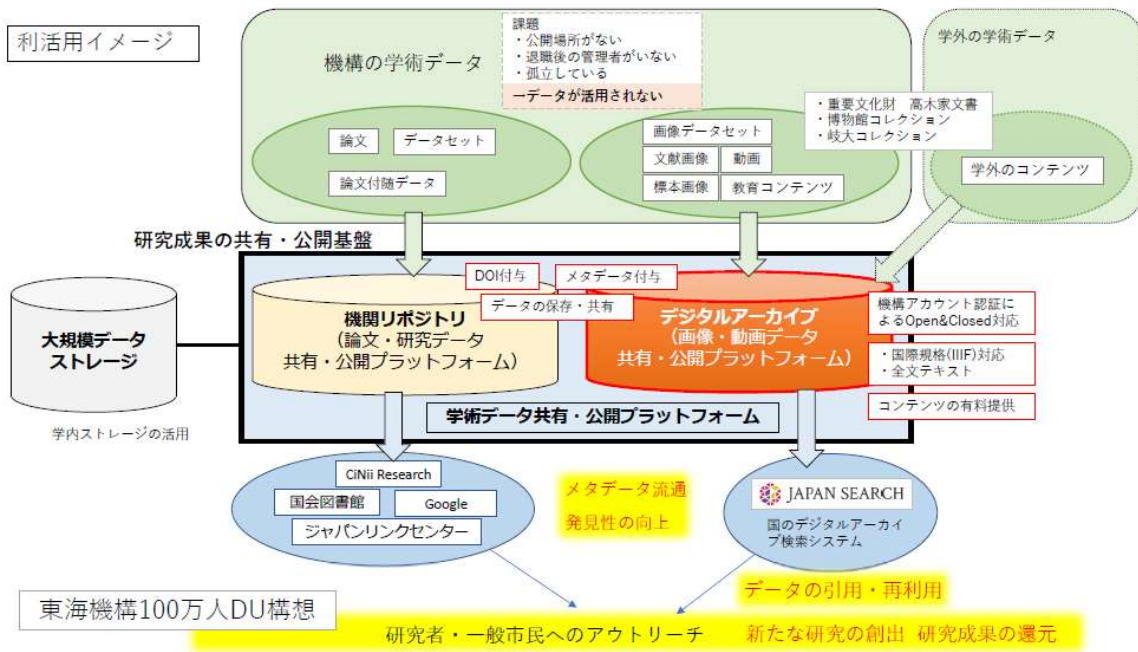


図1 機構デジタルアーカイブプラットフォーム概要図

デジタルアーカイブは特に古典籍の利活用が進んでおり、宇宙地球環境分野では国立極地研究所が国文学研究資料館の古典籍資料を用いて行ったオーロラに関する研究¹がある。本学は江戸時代の旗本・西高木家の旧蔵文書群である高木家文書を所蔵しており、豊富な治水関係資料に加え、日記等の家政関係文書も多数保有していることから、これら資料の活用を検討するため意見交換会を開催した。

¹ <https://www.nipr.ac.jp/info2023/20230427.html>

2. 実施概要

「高木家文書の利活用に関する意見交換会」

日時：2024年2月21日（水）10:00-12:00

場所：中央図書館5階大会議室

参加者：石川寛准教授（人文学研究科 / 附属図書館研究開発室兼任室員），三好 由純教授，菊地亮太特任准教授（宇宙地球環境研究所），端場純子，眞野博和，佐藤久美子，鬼塚昌枝，大野尚子，小嶋悦子（附属図書館）

内容：

- 1) 趣旨説明（端場）
- 2) デジタルアーカイブプラットフォームの説明（眞野）
- 3) 高木家文書の概要説明（石川准教授）
- 4) 意見交換

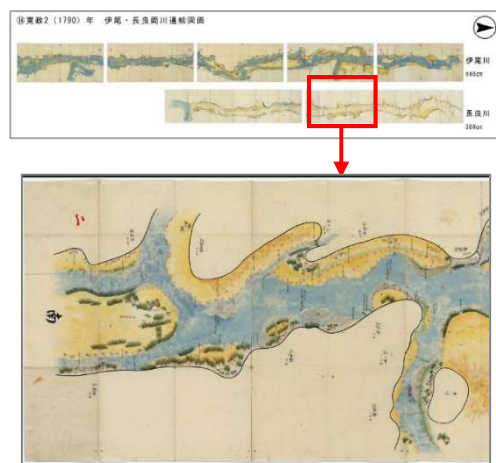


図2 高木家文書 名古屋大学附属図書館蔵

3. 意見交換会まとめ

高木家文書は江戸期の旗本高木家の文書群である。江戸初期から明治期まで（17～19世紀頃）の古文書，古記録，絵図類から成り，近世文書では国内屈指の文書群となっている。旗本地行制，木曾三川流域における治水などの特色ある内容を含んでおり，古文書としての研究だけでなく，名古屋市博物館の災害の展示会や減災研究など異分野でも活用されている。18世紀半ばから20世紀にいたる日記の中に自然現象などの記述も含まれており，古記録を使った過去の気象に関する研究や，過去の歴史情報を復元していくという研究もあり得る。

意見交換では次のような意見があった。

- ・ 紙の原料や状態など，デジタル化で失われる物理的な情報がある。それらの取り込みが課題となる。
- ・ 絵図に書かれた情報をデータベース化するために，位置座標があるとよい。
- ・ 日記の記述から気象情報を読み取る場合，くずし字の解読が必要になる。
- ・ 利活用のためには，機械可読であることや，データの品質管理が重要になる。また，適切なメタデータ項目を用いる必要がある。
- ・ メタデータは機械学習による自動付与も考えられる。
- ・ 具体的な研究プロジェクトがあると認知してもらいやすい。
- ・ 古文書が読めない研究者にも使いやすい加工されたデータが必要である。

古記録を使った気象研究は他にも事例があり，ユースケースを紹介するワークショップを企画してはどうかという意見もあった。名古屋大学は2024年4月に「デジタル人文社会科学研究推進センター」を設立し，デジタルデータの積極的な公開や相互利活用を促進することをミッションの一つに掲げている。附属図書館は全学の支援組織として今後も分野を超えた融合研究に資する活動をしていきたい。